

東洋大学図書館ニュース

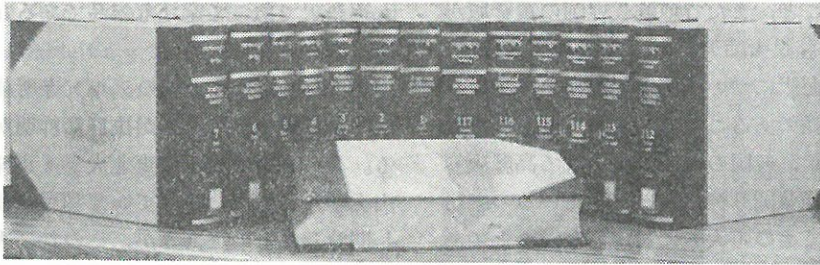
KOZMOS

デルゲ版チベット大蔵経 解題……………	1～2
竜山文庫所収 ペスタ ロッチャー「ゲルトル ート教育法」初版本 について……………	3
私のすすめる一冊の本 ……………	4～6
金沢工大見学記……………	4～5
研究余話 幻想……………	7
館内だより……………	8

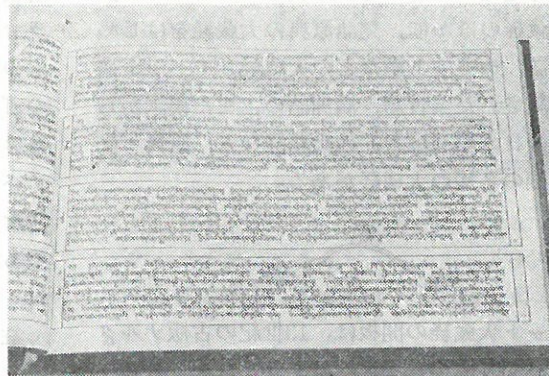
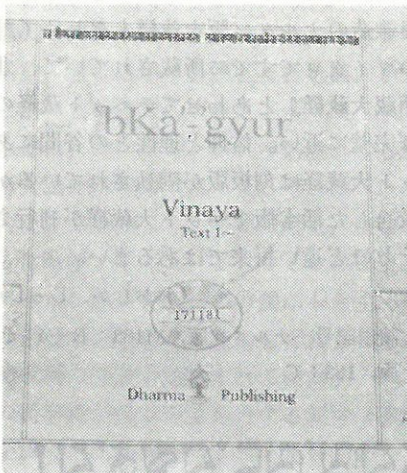
コスモス 1983 秋 (No.63)

蔵書の中から

デルゲ版 チベット大蔵経



全 120 冊 27×38 cm. 限定 100 部の内 No. 76



写真左 標題紙の一部 上 本文頁

1983年4月購入, 請求記号 183 : B-4 : 3

(解説記事は次頁)

デルゲ版 チベット大蔵経 解題

大 鹿 実 秋
(文学部印度哲学科教授)

1

戦前の小学校 国定 教科書 国語読本 (巻11) に「鉄眼の一切経」という一課があって、鉄眼禅師道光 (1630—82) が世にいわゆる鉄眼版 (また黄檗版) 6,956 卷 (統蔵経も含む) の漢訳大蔵経を 1681年 (天和元) 約 5 万枚の板木に彫刻印字 (雕造ちょうぞう) 開板した資金と労力の面での 17—8 年間の苦心談が記されていた。この教科書から漢訳大蔵経のこと、またこの鉄眼禅師の黄檗版が上野寛永寺の 慈眼大師天海僧正の 1648 年 (慶安元) 刊行の天海版についてわが国で初めて開板された漢訳大蔵経であることなどを学んだものである。そして先年、韓国海印寺を訪れて高麗版の大蔵経版木が経蔵閣 2 棟に収納されているのをまのあたりにしてその厩大さに驚かされたことであった。大蔵経 (また一切経、たんに蔵経ともいわれる) といえはわれわれ日本人は漢訳大蔵経のことしか考えないほどにそれは親しいのであるが、漢訳大蔵経のほかに、梵語原典の大蔵経をはじめパーリ語、チベット語などの大蔵経、チベット語から重訳された蒙古語、満洲語の、また漢訳からの重訳の日本語 (国訳) の大蔵経など、原典・翻訳・重翻の各層の大蔵経がある。

2

チベット大蔵経の開板は、13世紀の古版ナルタン版を皮切りに19—20世紀のダライラマXIIIのラ

サ版 (経部のみ) に至るまで、本国チベットはもちろんブータン・中国においても行われて10指にあまる盛況ぶりである。後の蔵経は前の蔵経を底本としてつぎつぎと改訂開板されている。その事情は漢訳大蔵経と大きくかわるところはない。兩大蔵経は部帙において大差はないが、その収めている経・論は全同ではなく秘密部をはじめとして漢訳大蔵経にないものをチベット蔵経が収納していることも少なくない。またその逆。またチベット訳はその梵語からの訳語が統一されており、しかも逐語訳であって還梵も容易であるなどのために尊重される。

デルゲ王雕造のカムのデルゲ寺所蔵のデルゲ版は印刷紙も上質で文字が抜群に鮮明かつ優雅である。デルゲ版の摺本は東北大学・東洋文庫・高野山大学などに所蔵されていて利用者はそこに出張し閲覧したものであるが、このたび大川図書館長の英断によって、Oakland, Calif. の Dharma Pub. 1981発行のデルゲ版大蔵経 (限定 100 部) を購入所蔵した。またツァンのナルタン寺所蔵のダライラマVII雕造のナルタン版大蔵経もきわめて鮮明なもののマイクロですでに所蔵されていて、北京版の『西藏大蔵経』とあわせてチベット蔵経の蔵書はほぼ完璧に近い。信仰と理性との谷間にあつてチベット大蔵経は刻板版が固執されているが、各版を校合した活字版チベット大蔵経が刊行されるのもそれほど遠い将来ではあるまい。

(おおしか じっしゅう)

註 請求記号 ナルタン版, M183 : B—4 : 4 北京版, 183 : C

། འཕགས་པ་ལྷ་མོ་ཆེན་མོ་དཔལ་ལུང་བཟུན་པ།

貴重書から

竜山文庫所収 ペスタロッチー「ゲルトルート 児童教育法」初版本について

西村 誠
(文学部教育学科教授)

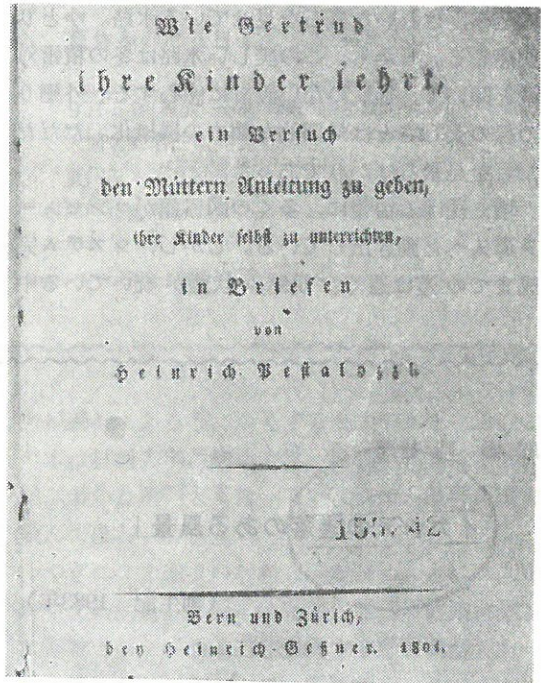
去る昭和52年6月、94歳の御高齢をもって逝去された本学名誉教授竜山義亮先生の御生前の蔵書一切は、御遺族の御高志により、本学図書館に寄贈され、竜山文庫として整理収納されている。その中には多数の貴重な書籍・文献が含まれているが、その一冊に、ペスタロッチーの「ゲルトルート児童教育法」（正確には「ゲルトルートはその子をいかに教えるか——みずからその子を教えようとする母親たちのための書簡体の手引」——*Wie Gertrud ihre Kinder lehrt, ein Versuch den Müttern Anleitung zu geben, ihre Kinder selbst zu unterrichten, in Briefen*）の初版本（1801年版）が存在する。

「ゲルトルート児童教育法」は、ヨーロッパ近代教育史上最大の教育家（思想家であり、理論家であり、実践家）であったペスタロッチー（Johann Heinrich Pestalozzi 1746—1827）の教育理論上の「主著」とされるものである。

この書を執筆した頃、ペスタロッチーは50代半ば（1801年55歳）であり、それまでのさまざまな社会活動、教育活動の苦節と挫折を経、新たに理解者と協力者を得て、ブルクドルフ（ベルン東北方の小都市）の学校で、かれの信念にもとづく新教育の実験を試みつつあった。それはペスタロッチーの生涯でも珍しく、希望に燃え、仕事も軌道に乗った時期であって、ようやくその成果が認められてきたかれの新教育の方法にもとづく新たな学校の創設や、その教育技術を普及させるための教員養成所の開設も見込まれていた。

この新学校が抛りどころとする教育（教授）の原理を広く人々に報らせることを目的として、友人ゲスナー（スイスの愛国的革命運動家であり出

版社主）への書簡という形式で、それを叙述したものが本書である。ゲスナーはこれに上記のような題目をつけて公刊した。いま、ここにみる初版本には *Bern und Zürich, bey Heinrich Gessner 1801* と記されている。



■ 題名紙の一部

ゲルトルートとは、これまたペスタロッチーの文学上の主著である「リンハルトとゲルトルート」のヒロイン、聡明な妻であり母であるゲルトルートのイメージと結びつけたものである。

この書は、ペスタロッチーが生涯の悲願とした民衆の基礎陶冶、とりわけ直観主義にもとづく知的陶冶の方法の体系化を意図したものである。

(6頁へ続く)



金沢工業大学見学記

ともかく素晴らしい施設である。金沢市郊外にそびえる12階建の図書館、その周辺を色どる芝生・植込み、きれいな底石を見せている水路。ゆとりを感じる。しかも、この美しい水路は冬の積雪対策と聞いて、無駄のない設計に感心する。外廻りの緑の美しさとは対照的な館内の機械化。ただただ目を見張るばかりであった。

増え続ける情報に、多くの図書館がコンピュータ導入へと動き出している。しかし、システム完成までの道は遠く、足踏み状態が続いている中

で、金沢工業大学ライブラリーセンター (KIT—LC) は、図書館界に旋風を巻き起し、昭和57年6月に開館後1年余りで、見学者が優に1万人を越えている事でも注目の強さがうかがえる。

KIT—LC の第1の特徴は、12階建てというかつての図書館建築では考えられない高層建築を可能にし、最大座席数3千、最大収容冊数100万冊 (現在約18万冊所蔵) と桁はずれの大きさにある。入口はブックディテクションゲートと言われる、近頃私鉄などで多くみかけられるようになった、改札口方式。学生証自体が磁気処理されており、利用者はこのゲートを通る事により、館内はフリーパス。どのような大きなバッグ類も持ち込み可。

全所蔵データをコンピュータに入力することにより、あの莫大なカード目録を一掃、私大では初めてのカードレスライブラリーにした事も、大きな特色となっている。端末とプリンタにより、利用者は必要な資料の所蔵を確認し、目的のフロアへと散って行く。各フロアは分野別になっており、資料は、フロア数・書架ナンバー・書架段数の打ち出された色別ラベル (例えば、5階は、情報処理・計算機工学系と経営・管理工学

私のすすめる

船橋 晴雄著

「イカロスの墜落のある風景」

(創生記 1983年)

工学部教授 中村 慶一

索引のついていない本だが読み進むうちに、どうしても索引を作りたくなるものに時たまお目にかかる。そうして本書はまさにそういう本の一冊であった。羽根を固めた蠟が融けて海中に墜落したイカロスを画くブリュッゲルの画の主題になぞらえて、自由ハンザ都市、フィレンツェ、スペイン、オランダ、イギリスなどが経済的繁栄を誇り

ながら没落していったあとをたどり、今経済的にめぐまれている日本も、いつの日かこのあとを追うだろうが、経済的な下り坂の時こそ文化的には成熟期を迎えていることに思いをいたし、我が国経済の定年の延長と共に、定年後の豊かな老後を考えて置くべきであるとする著者の主張には説得力がある。

著者は大蔵省の職員で、欧州共同体日本政府代表部に勤務中歴訪したヨーロッパ諸都市の紀行文の形をとりながら経済史を見事な語り口で綴っている。

達意の文には渡部昇一のもの以外あまりお目にかかったことがないが、ここに気鋭の新人を得た思いである。

請求記号 332.3:FH (白山) (工学部)

系でブルー。9階は、環境・都市工学系と建築・デザイン系でオレンジ)により配架されている。日本十進分類法によらない新しい配架方式である。

第2の特徴は、図書館のコンピュータ化の基礎に大学全体が一つになった教育方針がある事である。SL(サブジェクト・ライブラリアン)制度の確立、図書館利用指導の必修課目への導入などがその例である。各専門学科から選ばれた教員10数名がSLとして、専門資料の収書、学生への図書館利用指導を行っている。また学生は、正課として図書館利用指導の中で、端末機使用法をはじめ、図書館利用について学んでおり、図書館員も、仕事をコンピュータ化したかわりに、少しでも多くの学生と接し、よりよい指導を心がけている。

以上の様に、金沢工業大学ライブラリーセンターの完成は、種々な面で図書館界に大きな影響を与えた。中でも、コンピュータ化を軸として、教育・研究と図書館の歯車がガッチリとかみ合っている所に、他大学図書館とは異った新しい図書館を見ることが出来たと思う。

本学においても、現在図書館のコンピュータ化

が計画中であり、KIT—LCの例は、当館のそれを進めて行く上で、大いに参考になった。当館では、雑誌業務からのコンピュータ化が進められており、当初は管理業務が中心となるが、徐々に直接的な利用者へのサービスを考へて行くつもりである。そして、最終的には、図書館のトータルシステムの完成・他大学とのネットワーク形成が出来ることをめざしている。

まもなく創立100周年を迎える総合大学の図書館と、昭和40年開校の単科大学。余りにも異った立場にある事は明白であるが、素晴らしいエキスをとり入れて、総合大学図書館にふさわしい、特色あるコンピュータ化を行えればと思う。

(江澤, 内田, 田辺)

夏休みのある日 工学部分館

9月5日(月) 天気 晴, 気温30°

入館者92名, 館外貸出38冊

夏休みも終りに近づき、こんなに多くの人が図書館に足を運びました。もしかして宿題の追いこみかな?

一冊の本

(1) S. P. Timoshenko 著

「Strength of Materials」

(D. Van. Nostrand 1962年)

(2) 武藤 清, 二見 秀雄 共著

「趣味の構造力学」

(市ヶ谷出版 1983年)

工学部助教授 浅井 貞重

このような題を頂くと学生を対象とすべきか、それとも専門職に就いている人を対象とすべきか戸惑う。そこで私の専門である材料力学につき先ず学生を対象として考えると、大同小異の教科書が多く出版される昨今では新刊から選ぶより、むしろそれらの本を草するとき各著者が参考にした種本の中で主に引用頻度が多かった本を紹介した

方が確かであろう。かくすると(1)の本となる。この本は材料力学、構造力学、振動学、弾性学等を学ぶ者の登竜門ともなっているので、是非原書で読んでほしい。

つぎにひと通りの材料力学を修めた人には(2)をおすすめする。この本は戦前の雑誌「建築世界」に連載された「構造力学に関する懸賞問題」を一冊に纏めたものであって、問題をオーソドックスに解くよりも、むしろエレガントな方法で解くことが要求されており、解答例には普通の構造力学の教科書には出ていない方法が分り易く解説されている。これらの解説の中には「成程」という箇所が随処にあり、読み始めると読者を引付けて放さない本である。

(1)の請求記号 501.32 : TS : 3 (工学部)

(2)の請求記号 524.1 : MK : 2 (工学部)

私のすすめる一冊の本

磯部邦夫著

「初心者のための品質管理実施法」

(日本規格協会 1967年)

工学部教授 君島二郎

日本企業成長の一因にTQCの重要性が挙げられ、多くの外国企業までがその導入に熱心だと聞いておりますが、学生の頃(昭和28年)は、石川馨先生のQCの初講議で、「これからQCを導入しない企業は倒産する。」と聞かされてショックを受けたものの、手法の修得に始終して本質の理解までは至りませんでした。その後、企業の組織内でよくよく悩んでいたとき本書に出会い大いに啓発されました。「QCは後工程の人に迷惑をかけるためのもの」という職場倫理めいたことも素直に受け入れられるように書かれています。最近、山本七平さんが「1990年の日本」の中で、江戸時代以前からの日本の伝統の中にQCを成功させる要因が潜んでいたと言っていますので、本書に共感される方も多いと思います。150頁たらずの小冊子ですし、平易に書かれていますので、特にこれから企業人となる三、四年生にお勧めしたいと思います。

(註) 絶版につき、磯部邦夫、西堀栄三郎共著「品質管理実施法」(日科技連出版社 1983年)を参照して下さい。請求記号 509.66:NE(白山)(工学部)

夏休みのある日 白山図書館

8月1日(月) 天気 曇, 気温29.5°
館外貸出124冊, 館内貸出193冊, 雑誌館内貸出106冊, 館内閲覧者110名。

通信教育のスクーリングが始まり、通信教育生の登録手続、貸出が目立つ。また、雑誌の利用は、休暇中の方が多い。

分類目録が使いやすくなりました!

夏期休暇中、カードボックス増設のため、分類目録は、一時使用中止となり、皆様には大変ご不自由をおかけいたしました。おかげさまで無事完了することができました。

これまで、特にカードが詰まり過ぎて、ひきにくかったところは、できるだけ余裕をとって、見やすくしました。

さらに、見出しを増やし、分類項目は、番号と言語で表わし、より使いやすくなるよう工夫しましたので、どうぞご利用ください。

(整理課編成係)



(3頁より)

つまり、民衆の子どもの知性を開発し、人知や学問を民衆の手にとどくものにするような教育の技術の駆使を、どんな教師にも、どんな母親にさえも可能にすることを目ざして書かれたものである。「わたしは、あらゆる技術について学問について、その初歩点の学習を民衆にとってもっともたやすいものにする、そして国内の貧しい人々や無力な人々の、顧みられず、育てられもせずに打ちすてられてきた能力に教育の技術を適用すること、つまりかれらが人間らしい人間になるための通路を開くこと、それを望んでおります」(長尾十三二訳)とペスタロッチーは本書でのべている。これが、近代教育のエートスを集約したものであることはいままでもないであろう。(長尾十三二著「ペスタロッチー『ゲルトルート』入門」明治図書、参照。)

(にしむら まこと)

註 竜山文庫は、1982年3月にほぼ整理を終えカード目録は2階目録コーナーに別置されている。関連記事はコスモス No. 57。

エレクトロニクスやバイオケミカルの領域を中心にした絶間ない「新発見」や「技術の革新」が、きわめて日常的で自然な営みとして理解されるようになってから、すでに久しい。われわれにとってこの起点といえる明治初期、新政府に施策の理念をあたえ、具体化の指針を提供したのが西

欧科学・技術であるといわれている。なかでも近代国家の構築とわかちがたく結びついていて、幸運にも多くの成果をもたらした技術に対しては、絶対的な信仰がいち早くつくりだされたと思われる。明治の偉業を担当した権威ある技術者の集団である工学会が編集し、膨大な資料を集大成していることで、貴重な文献として親しまれている『明治工業史』(全10巻)は、この技術の絶対化をもっとも具体的に促がした著作といつてよい。近代国家の建設にあたって最初のナショナル大型プロジェクトとよんでよい造幣事業には、伊藤博文・井上馨・井上勝・大隈重信といった明治の元勳が深く関与し、イギリス東洋銀行を介して雇入れたキンドル等の貢献によって短期間に成功を収めたし、さらにはかれらが伝えた技術を日本人技術者は効率よく消化し、開業後わずか4か年でお雇外人を必要としないまでになったことが強調されている。そのさい、明治期における日本人技術者の偉業を賞賛するにあたって、かれらにつながるお雇外人もまた欠かせない脇役となっている。

技術者たちのこのような同時代人を顕彰する努力は、当然のことながら斉一性ある記述によって権威の高揚を志向しており、キンドル以前の造幣事業の草創期における事績を軽視し、ときには抹消さえも意に介していなかったようである。そしてお雇外人の着任期と事業の推移とのあいだの整合性、工場建設の期間についての異常さなどには、気配りすることを忘れていて、これは読者にとって幸運なことといわなければならない。

このような欠陥に気付くことはそれ自体すばらしい発見であり、偉大な権威に対して疑義の提出という勇氣ある行動にもつながっていく。ここを

起点に史実を探索して新しい歴史像をつくる作業に進むことは、きわめて大きい楽しみをあたえてくれ、それはパズルを解く作業にも似ているし、山師的な冒険に終る危険をともなっていることもある。とくに技術に関しては西欧社会で既知のものを移植したことも一因となって、具体的記録が乏しいことで、後者の例が多いが……。

造幣事業の初期状況については、このような調査によって、旧幕時代のオランダ留学生や洋学者の演じた役割が大きく、かれらの手で当初の計画が立案され、少なくない成功を収めていると言いうことが明確になってきている。そして西欧技術の受容にあたって、通説とは異なって、日本が高い技術的なポテンシャルをもっていたことが容認されてきてもいる。

これらは明治期を叙述した多くの技術史家たちがきわめて熱心に求めていた史実のはずである。それにもかかわらず、「維新政府」のもとにある技術者を、そしてその時代の技術を顕彰するために旧幕時代からの伝統は否定し、抹消せねばならないし、ときには造幣事業にまつわって発生した財政がらみの政治事件から技術を隔離させ、中立性をあたえること

が、かれらにとってははるかに緊要な課題であったのかもしれない。そこで陥った視野狭窄症ともいえる症状こそは、技術の絶対化という信仰に向けての途を拓くのに相応しいと思われる。こんにちの情報化社会においては、科学・技術に対するこの病状は幻覚をともない、しかも深く潜行しているように思えてならない。

(経営学部経営学科教授 かまたに ちかよし)

註 『明治工業史』 請求記号 502.1:N(白山)
502.1:N:8(工学部)

『幻想』

鎌谷親善



館内だより (83.5/20~9/17)

- 5月23日 朝霞分館、芝浦工大より図書館見学に来館
中外日報社 桑村氏取材のため来館
- 26日 朝霞分館視聴覚アワー
- 6月1日 人事異動発令 川越事務部次長百武(図書館事務部次長へ) 朝霞分館事務長鹿島(工学部分館事務課長へ) 庶務課長補佐池田(朝霞分館事務課長へ) 工学部分館事務長中村(情報処理課長補佐へ) 図書課大和田(朝霞分館主任へ) 整理課井田(学生課へ) 工学部分館杉野(整理課へ) 教学部近藤(図書課へ)
- 7~8日 千葉文庫搬入
- 16日 私立大学図書館協会東地区部会、於東京農大 大川館長・山内四参加
- 17日 視聴覚室主催映写会「いそしぎ」
- 22日 図書館予算検討小委員会
- 28日 逐次刊行物小委員会
神奈川大学図書館、大久保氏他見学のため来館
- 7月1日 仏教図書館協会総会 於大谷大学 島田出席
- 7日 工学部運営委員会

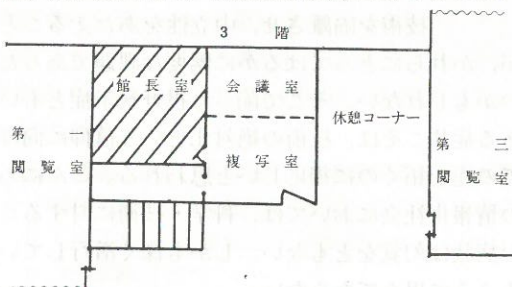
- 13日~16日 私立大学図書館協会総大会、於金沢工業大学 大川館長・江澤・内田・田辺出席
- 15日 私立大学等情報処理教育連絡協議会 於都市センターホール 村山参加
- 19日 図書館運営委員会
- 8月3日 千葉大学図書館見学 小島・丸山・村山・内田・田辺参加
- 9月5日 朝霞分館 東京堂来館国会カード導入問題検討
- 8日 国立国会図書館見学 大和田・千脇・原口
- 11~13日 大学図書館研究集会、於嵐山国立婦人教育会館 大和田・岩田・崎村参加
- 14日 国立国会図書館見学 池田・後藤・村山
- 17日 図書館職場研修「図書館業務の電算化について」 於白山図書館

分科会関係

- 逐次刊行物(村山・内田) 5/20 6/24 8/22~24
書誌学分科会(山内(四)・高橋) 5/21 6/11 7/18
視聴覚分科会(水口) 6/14 7/12 9/13
相互協力分科会(村田・生野・原口) 7/19 9/20
書誌作成分科会(小笠原) 7/21 9/10

館長室移室のお知らせ

館長室は、3階に移室いたしました。旧館長室は電算機が設置され、機械室(仮称)となりました。



訂正

前号(No. 62)の記事を次のとおり訂正いたします。

- P.1 右上 斉 加美彦 → 斉 加実彦
P.7 右上19行目 Jousnal → Journal
P.8 館内だより、4月
12日 書誌作成…………… → 13日
13日 逐次刊行物…………… → 15日

夏休みのある日 朝霞分館

8月18日(木) 天気 晴, 気温32°
朝霞校舎は一般教養課程で夏季休暇になると、一部クラブ活動を残して帰省してしまうため、利用者はまばらである。校舎近くに在住する学生の中には涼を取りに来る人もいようである。

編集後記

鮮やかな朱の箱に入ったデルゲ版チベット大蔵経を、カラーでご紹介できないのが残念です。編集第2作、創り出す仕事は面白い(?)と委員各々力を尽しましたが、ご感想はいかがでしょう。明日の図書館、コスモスのために忌憚のないご批評をいただければ幸いです。ご多忙中、ご執筆くださいました皆様、写真撮影をしてくださいました春日 敏宏氏(文学研究科日本史学専攻修士2年)ご協力ありがとうございました。(裕記)